

## 第二章 逆さま文字、何が逆さま？・・・文字の認知

- ・ I M U A の T シャツをきた息子が、鑑に写った自身の像を見て「AMU I って何」「でも文字は反対になるのに、どうして絵は反対にならないの？」P.045 イラスト
- ・鑑の面に対して垂直な方向（前後の奥行き）のみ反転した物理的な反射が反映されているのに過ぎないが、鏡に映った像と文字は認知的には異なる扱いをされる。
- ・「光学反転」鏡の前にある物が忠実に反射されている、物理的・光学的な現象として
- ・「視点反転」鏡に映ったこちら側を向いている人物像（自分）の視点を仮定して見た場合の左右と実際に自分の側からの左右とは逆だということ
- ・「表象反転」・・・不明

### 鏡文字の謎

- ・左右対称でない文字の反転（鏡文字）が一定割合見られたことに加え、左右対称の b と d に至っては、わざわざその鏡文字バージョンを書くケースのほうがむしろ優勢という驚きの結果がある。鏡文字が生まれる理由は、  
（答1）左脳で処理された情報の反転情報が蓄えられた右脳のほうの情報が優位になってしまう。  
（答2）水平方向の向きという情報に関しては、発達段階の子どもの記憶に定着しにくい
- ・そもそも人間の感覚認知においては、向きに関係なく同じ形は同じものとして認識するのが基本のあり方だと考えられている。
- ・脳左右の半球に、正しい方向の画像と、それを反転させた画像がそれぞれ存在している。
- ・アルファベットと異なり、かな、漢字は複雑で、空間的に分断しようと思ったら、分断が可能である。なので、「鏡文字ではないけど、逆さ文字」が生まれる。

### 文字の分解と組み立て

- ・へんをつくりを左右逆にしてしまうパターンの文字、P.55 の「陸」
- ・左右緒パーツに分けたあとに、左右逆に配置している、P55. の「ほ」
- ・文字の視覚的な情報をどのように認識しているのか。
- ・「伏魔殿モデル」脳にはたくさんのデーモンがいて、資格情報として得られたイメージを受け取って、個別の特徴に分解する者、個別の特徴ごとにそれを専門的に受け持って入力の中にそれが存在するか検出する者、実在する文字候補それぞれを体現し、

自分の特徴の組合せに近いぞ、入力されたのは自分が担当する文字なのではと主張する者、それらの主張の中でも最も有力な候補者を選ぶ役割の者がいる。

### のび太とのび犬の問題

- ・太と犬との認知は、大というパーツと、というパーツの組合せになっている
- ・文字の意味を変えうる最小単位のことを「字素」「書記素」などという。
- ・メンタルローテーション能力発達に伴い、傾いた文字や図形の形からそれらの傾きのない形が想像出来るようになる。
- ・すなわち、複数のパーツの構成が全体をなすという意味で共通する漢字の知識において、全体を丸ごとビジュアルとして判別する知識、個別のパーツに冠する知識、それらパーツの配置に冠する知識が役割分担しながら関わっていると考えることができる。

### 第5章 小さい「っ」の正体・・・特殊モーラと音声知覚

- ・同じ小さい文字でも「っ」と「っ」以外とは異なる
- 【小さい「っ」の正体？】
- ・モーラ（拍）において、「っ」は「ん」「一」と同様に、独立した一音（特殊モーラ（拍））と呼ばれている
    - きって・・・3拍、コーラ・・・3拍、ボタン・・・3拍
    - きより・・・2拍、きゅうり・・・3拍、キャッチ・・・3拍
  - ・小さい「っ」がどういう音かというと、実態は謎。「みっつ」といいかけて小さい「っ」のところでわざと止めてみると、その瞬間たしかに「っ」っていつている口の形をしている。やっぱり「っ」って要っているのに近いかもと感ぜられる。
  - ・だけど、カップ、ぱっく、せっせでおなじことをやってみると、小さい「っ」の瞬間に「っ」は希薄になる。ぱ、く、せの発音を先取りした形になっているはず。
  - ・小さい「っ」は、それ自体「こういう音」という固定した特性をもつわけではなく、次の音の情報を先取りしてほかの音と同等の長さを一拍とるとというのがあえていえばその正体である。「っ」が選ばれたのはまったくのたまたまではなく、日本語の音の歴史的な変化に関わる理由があるそうだ。
  - ・グッチ Gucci、パパラッチ paparazzi、スパゲッティ spaghetti など、イタリア語由来の語を日本語で書き表そうとする際、片仮名だと小さい「ッ」がしっくりするこれらの語は、綴りを見れば自明ですが、二重子音、つまり子音部分が長く発音されることを意味する。
  - ・イタリア語話者は、「a\_su」「assu」を聞き分けられるが、日本語話者は、聞き分け

られない。実際には聞こえない「\_」の部分にも、聞こえない情報（摩擦音の特徴）を補填して「っ」として頭の中で見なすことが期待されている。

- ・日本語話者の音声知覚のしくみは、小さい「っ」に相当する一拍部分については、特定の音の特徴にこだわらず柔軟に判断する、つまりあえて敏感にならないよう選択して発達したともいえる。

- ・日本語話者の脳内で、入力にはない情報を補填する事例として、日本語話者は、音声を知覚する段階で母音を補って処理している、その実験結果がある。無意味語 (ebzo と ebuzo) の聞き取り実験で、日本語話者は聞き分けられない。

- ・八ヶ月の日本語話者は、聞き分けできていたが、14ヶ月となると、日本語話者の赤ちゃんは聞き分けできなくなった。これは日本語の拍（モーラ）をきちんと適用できるようになるための発達であり、能力の劣化ではない。

- ・逆に「ん」「ー」の区別は、日本語話者で区別できていても、フランス語話者では区別できない（ビルとビール、けんいちをケニチ、しんいちをシニチという）

## 第6章 なぜ会話が通じるのか・・・語用論

- ・小三国語の授業教材における解答例。「筆者の説明のしかたで、「いいな」「分かりやすいな」と思ったところはありませんか。」「ありました。」（あつたらあげなさいとは書いてないが、普通はあつたらそれを挙げなさいと答えを求めている）

- ・京都人の「ぶぶ漬けでもあがっていかはりますか」（そろそろ帰ってくれの意味とされる）

これらのように言語表現どおりの意味だけでなく、それを使う話して・聞き手との関係や文脈、その場の状況などの情報から総合的に「意図されている意味」を割り出すのは言語学で言う「語用論」である。

人間の会話において、話してと聞き手の間には、つねに一定の了解事項があり、聞き手と話し手がそれを共有していることにより、必ずしも言葉どおりに表現されていない内容のやりとりが可能である。その了解事項（会話の公理）が語用論的知識という。

量 (Quantity) : 求められているだけの情報をもつ発話をせよ。求められている以上に情報をもつ発話をするな

質 (Quality) 偽であると信じていることを言うな。十分な証拠を書いていることを言うな。

関係 : 関係性をもて

様態 : あいまいな表現を避けよ。多義的になることを避けよ。簡潔たれ、順序立てよ。

「筆者の説明のしかたで、「いいな」「分かりやすいな」と思ったところはありませんか

か。」という表現は、言葉通りに解釈すれば、「はい、いいえ疑問文」です。

しかし「そもそもなんでこんなことを聞かれるのか。これって文章の内容や表現技術をどれだけ理解しているかが問われていることだ」と気づける子は、「はい、いいえ」だけをきいても仕方がない、それだけきいている訳がない。と推論することになる。大人にとってはあたりまえだが、一定の経験と語用論的知識が必要である。テストであれば、解答枠の大きさなども語用論的な意味となる。

### 【正三角形は、二等辺三角形？】

・YES と答えたあなたは、論理的・数学的なご見解。3は2を含むので当然だ。本を三冊読んだなら、間違いなく二冊も読んでいるから。

・NO というあなた、「確かに理屈ではYES かも分からないが、正三角形をさして「二等辺三角形」とは普通言わない。これが語用論的解釈である。

・「言語を使ってコミュニケーションする人間は、求められているだけの情報を持つ発話をする。求められている以上に情報を持つ発話はしない（これに反する場合は言葉通りでない意図が隠されていると思って良い）」というのが「量の公理」である。

・すると、本当は三辺とも等しいのに、わざわざ二辺が等しい三角形であると表現するのは、会話の公理（量の公理）に反することになる。この三角形が正三角形であることをどうしても隠したい理由があるならうなずけるが、そうでないなら、普通はへんだ。この状況でこういう言い方を選択するのは妥当かどうかという観点から話者の意図を考えるのが語用論である。

・二つの辺が等しいというからには、三つまたはそれ以上の数の辺について成り立ってはならないという解釈上の制約がはたらく。

・すなわち、ある言語表現において、言葉通りの、理屈的な解釈と、経験に基づく常識を当てはめた解釈の間に隔たりがありうる。

例) 100点とった子も何人かいたけどね・・・この解釈は？

・我々は、どうやら小学生にあがる年齢あたりから、文字通りでない、状況や文脈から期待されている解釈をすることを学んでいくと言われている。同じくこのころ発達する「相手ならどう考えるか」「相手はどんな前提を持っているか」という他者の視点を押し量る能力と連動している。

例) ドリルの1と2を終わらせなさい

→じゃあ、3はやらなくていいんだ、と推し進める

3のことには、言及していないのだが・・・

## 第7章 頭の中の辞書をひく・・・メンタル・レキシコン

・人間の頭の中で「文字」「単語」といったデータがどのように整理され、必要に応じてどのように検索されるのかに思いを巡らせる

### 【メンタル・レキシコンの検索】

- ・それぞれに個人が習得し記憶した語の知識のこと
  - ・文を読んだり他人の発言を聞いたり、自ら発信する際には、メンタルレキシコンからその都度必要な語を検索している。しかし、紙の辞書や電子辞書を意識的に調べるときに行う一連の過程とは、かなり異なる作業である。
  - ・メンタルレキシコンの検索は、脳内で無意識・自動的に行われている。「文」という単語を含む発言をしようと頭の中で準備をしているとすると、「文」だけでなく一緒に「字」とか「書」などの意味的に関連のある他の単語立ちもスタンバイしてしまっていて、うっかりするとそちらの方が出てきてしまうことがある。
  - ・メンタルレキシコンに収録されている語情報は、発音や文法的な情報（名詞だとか動詞だとか）の他に、最も肝心の意味概念と結びついている。りんごという語に対して、(人によって違うが)色、形、果物の一種などの概念的な情報がりんごという語の知識の一部をなす。
  - ・この「概念との結びつき」が、検索プロセスと関わる。「プライミング効果」
  - ・例えば)調理師→医師、よりも、看護師→医師のほうが、医者と言語判断時間が速く処理される。
  - ・ほんの短い時間しか提示されない場合でも、サブリミナル広告のように、記憶(意識)されている。
  - ・あるモノや概念を表す画像や文字について、一致しない内容のものを提示すると(絵・単語干渉課題)、反応が遅くなる。(例、赤い文字で印刷された「青」を見せて色を答えさせる)。検索が混乱する。
  - ・単語認知研究において、一音違いの近傍語の多さが語彙判断課題の反応時間を遅くすることがわかっている。(語の認識スピードに差がある)
  - ・しかし絵・単語干渉課題については、音のつながりのある近傍語の方が速くなる(p194ではDOLLが速く導き出される)
- 【言い間違い】・・・メンタルレキシコンがどのようなものかを表している
- ・あつはなつだから(夏は暑いから)→その箇所よりもっとあとで発話される予定の部分が誤って早く出てきた<脳内で語を先取りして検索している>
  - ・へやいせま(狭い部屋)→heya、sema、子音部分、拍(モーラ)が入れ替わった
  - ・アクセントの間違い→橋、端、箸、志村けんと沢田研二(P212)
  - ・小学生のころ、先生と呼ぼうとして、「お母さん」、統語情報や意味制約

★★★で、結局のところ、??★★★